

教科・科目名	単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
地理歴史 世界史B	4	2年 普通科 (文系)	選択 必修	詳説世界史B (山川出版社)	最新世界史図説4ストーリー (帝国書院) 詳説世界史スタンダード テスト(山川出版社)

学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
主な学習内容	第I部では、地域ごとに異なる自然環境のなかで、人々が農耕や牧畜を基礎とする諸文明をつくりあげ、それらを基により大きな文明社会を形成したことを学習する。 第II部では、諸文明社会との交流のなかで新たな地域世界の形成や再編が促され、各文明社会が自己の勢力範囲の確立と拡張に努めた過程について学習する。 第III部では、海路の開発によって文明社会間の交流が一層活発化し、アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸文明社会の交流が一層進展して世界の一体化が始まり、世界の構造化が進んだことを学習する。 第IV部では、科学技術の発達や工業化の著しい発展を背景に、地球規模による世界の一体化が進み、二度の世界大戦後、冷戦を経て、グローバル化の下で世界が相互依存を一層強めるなか、様々なことが地球規模の課題となって残っていることを学び、それらの課題を歴史的観点から資料を活用して探究する。
評価の 観点・評価規 準	「知識・理解」・・・教科書や資料の内容を的確に理解しているか、歴史的背景や文化を明確に読み取ることができる。 「思考・判断・表現」・・・教科書や資料を参考にして、自分の考えや意見をまとめることができる。 「資料活用の技能」・・・教科書や資料集等から情報を正確に読み取ることができる。 「関心・意欲・態度」・・・積極的に授業に参加しているか。科目に対して、自学学習などを行っているか。また、グループ学習等に進んで取り組んでいる。
評価の方法	「知識・理解」・・・定期考査や小テスト等で適確に理解しているかを評価する。 「思考・判断・表現」・・・グループ学習やディベートを通して自分の考え・意見を的確に表現することができるかを評価する。 「資料活用の技能」・・・レポートの提出等を通して情報を正確に読み取ることができるかを評価する。 「関心・意欲・態度」・・・定期考査・小テスト・授業の質問、グループ学習への取り組み態度等を総合的にみて評価する。

学期	内容
1 学期	「世界史への扉」から世界史への関心を高めた上で、第1章オリエントと地中海世界、第2章アジア・アメリカの古代文明への考察を深め世界の四大文明を中心とした文明の概要をおさえる。 第3章内陸アジア世界と東アジア世界の形成を学ぶ事で、西洋と東洋をつなぐ地域である内陸アジアの重要性を認識し、五胡の移動による晋の崩壊から、近隣諸国の国家形成が進んだ事を認識する。その上で、「第1部まとめ」や主題学習Ⅰ「時間軸からみる諸地域世界」で学びを深める。 第4章イスラーム世界の形成と発展で東西交易路による交易から東西貿易で栄えたアラビア半島から商業を重視するイスラム教が誕生し、今日の世界においても大きな影響を与えていることを学ぶ。
	第5章ヨーロッパ世界の形成と発展、第6章内陸アジア世界・東アジア世界の展開から、ゲルマン人の移動による西ローマ帝国の崩壊とカールの戴冠からギリシア正教会とカトリック教会の分立につながった事、そして、内陸アジアのトルコ民族の移動によるビザンツ帝国の衰退が十字軍の誕生をもたらした事を認識する。特に、唐崩壊後の東アジアでは、遼・金などの北方民族の勢力が強く、モンゴルにいたってはユーラシアのほぼ全域を支配下におく大帝国を築き上げた事を理解する。「第2部まとめ」や主題学習Ⅱ「空間軸からみる諸地域世界」で第2部で学んだことを復習する。そして、第7章アジア諸地域の繁栄では、モンゴル帝国の崩壊からチムール帝国・明・オスマン帝国・ムガル帝国が誕生し、各地で繁栄するにいたったことを学ぶ。

<p>2 学期</p>	<p>第8章近世ヨーロッパ世界の形成から第12章アジア諸地域の動揺から、イスラム世界との交易からヨーロッパでルネサンスがおり、さらには宗教改革がおこる事でカトリック教会からプロテスタントが分裂していったこと、当初は宗派对立から三十年戦争がおこったが、次第にフランス・イギリスを軸とした主権国家体制が誕生し、ヨーロッパでの覇権争いが熾烈さをましたことを認識する。</p> <p>特に、イギリスでおこった産業革命とフランスのフランス革命から国民を軸とした国民国家が誕生し市場と原料調達のための植民地を求めるにいたった事を認識する。一方、オスマン帝国・ムガル帝国・清は国民国家への統合が遅れ、植民地・半植民地の状態になった事を合わせて理解する。</p> <p>「第3部まとめ」主題学習Ⅲ「資料から読みとく歴史の世界」で第3部で学んだことを復習する。</p>
<p>3 学期</p>	<p>第13章帝国主義とアジアの民族運動から第16章現在の世界から、ヨーロッパ諸国のアジア・アフリカへの進出は各地での民族運動を刺激することになり、それがトルコ・中国・インドで特に複雑な動きをたどっていく一因となった。また、20世紀初頭はドイツの急速な台頭が第一次・第二次世界大戦をもたらした事、第二次世界大戦後はソ連とアメリカの長期間にわたる対立(冷戦)がおこったことを理解する。</p> <p>冷戦終結後は、グローバル化の進展やイスラム過激派によるテロなど国際情勢が大きく変動していることから「第4部まとめ」主題学習Ⅳ「資料を活用して探求する地球世界の課題」を学習する。</p>
<p>備考 ・ 講座の特色 ・ 履修条件 ・ 注意事項 等</p>	<p>全範囲について、基本的な事項から始めていきます。地図や資料をふんだんに利用しながら、難しい語句や単語についても理解を深めるように配慮します。中学校まででは得られなかった幅広い教養を身に付けることを意識して取り組んで下さい。教科書や資料集・問題集、プリント・ノートを忘れずに毎回用意して下さい。</p>